

# 市民懇談会の開催結果について

2023年2月14日

# 市民懇談会の概要

**開催日時：**令和5年（2023）年2月4日（土）午前9時30分～午後0時30分

**場所：**守山市民交流センター

**申込者数：**23名

## 当日の参加人数

- ・ **参加者：17名**（6名欠席）  
+ ファシリテーター 9名

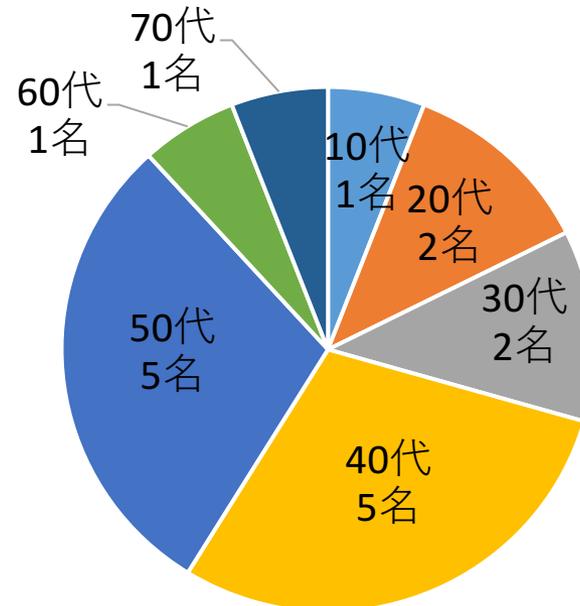
➡ **4グループに分かれて議論**  
（1グループあたり4～5名  
+ ファシリテーター2名）

- ・ 他 傍聴者：2名

## \* 参加者の抽出方法

無作為に抽出した18歳以上の市民2,000人に案内を送付

## 参加者の年齢構成



# 市民懇談会の概要

## テーマ

『2050年の守山の未来像 守山の環境について夢を語ろう』

### <参加者への趣旨説明>

- ・近年、地球温暖化対策や生物多様性保全の重要性が高まっている。
- ・特に地球温暖化は、世界各地に様々影響を及ぼし、2050年までに脱炭素社会を実現することが国際社会でも大きな課題となっている。
- ・その実現に向け、地球規模から日常の市民生活まで、できること・やるべきことを考え、取組を進める必要がある。
- ・市民の皆様が考える「2050年の守山市のありたい姿」を、次期環境基本計画の策定に活用することを目的に、市民懇談会を開催した。

### <配布資料> ※本資料p.9~参照

#### 参加者

- ・市民懇談会開催に際して実施した守山の環境に関するアンケート結果
- ・守山市の概要とこれまでの環境への取り組み

#### ファシリテーター

- ・「二つの持続可能社会の姿」 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

# 市民懇談会の概要

## <当日の流れ>

1. 開会式
2. アイスブレイク
3. ワークショップ
  - Step 1 : 身近に感じる環境の変化について (20分間)
  - Step 2 : 2050年の未来に守山の環境はどうあってほしいか (35分間)
  - Step 3 : 将来への希望・目標を実現するため、何ができるか (35分間)
4. 発表
5. 閉会式



# 将来の姿に関する主な意見

Step2は、守山市のありたい姿に直結するお題。

下線：特に将来の守山の姿や環境ビジョンに関連する長期的な視点から見た意見

## 環境ビジョン：自然と共生するまち

Step1（環境の変化）	Step2（2050年の守山）	Step3（何ができるか）
<ul style="list-style-type: none"><li>琵琶湖が汚れている</li><li>湖岸の水草の異常繁茂</li><li>琵琶湖で獲れる湖魚が減った</li><li>川がコンクリートで固められて自然の風景が少なくなった</li><li>ヌートリアがいる</li><li>ホタルが減っている</li><li>住宅が増えて、田んぼが減った</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>身近なところに自然がある暮らしをしている</li><li><u>新しい技術を取り入れつつ、田園風景も残っている</u></li><li><u>環境保全と住みやすさが両立している</u></li><li><u>自然を活かした快適な暮らしができています</u></li><li>地元の農産物の種類や量が豊富（地産地消）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>外来種を食用に活用する</li><li>耕作放棄地を家庭菜園用に借りられる仕組みをつくる</li></ul>

# 将来の姿に関する主な意見

## 環境ビジョン：脱炭素を実現するまち

Step1（環境の変化）	Step2（2050年の守山）	Step3（何ができるか）
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 気温の上昇を感じる</li><li>・ 夏が長くなった</li><li>・ 大雪が降った/雪が少なくなった</li><li>・ 豪雨が増えた</li><li>・ 車の交通量が増えて渋滞するようになった</li><li>・ エコバックやマイボトルを持つ人が増えた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>新しい技術を取り入れつつ、田園風景も残っている</u> [再掲]</li><li>・ <u>エネルギーを自宅で作くり、自給自足で賄える</u></li><li>・ <u>市バスなどの公共交通機関が充実し、自家用車の利用が抑制されている</u></li><li>・ <u>電気自動車や水素自動車に乗っている</u></li><li>・ 広い道路やバイパスがつくられている</li><li>・ 地元の農産物の種類や量が豊富（地産地消） [再掲]</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 太陽光発電などの補助金を活用する</li><li>・ 電気の使い過ぎを見直す</li><li>・ 家の窓を二重サッシにする</li><li>・ 車を使う時間を減らす</li><li>・ 自転車や徒歩での移動を増やす</li><li>・ プラスチック製品は極力もらわない</li><li>・ 紙の使用を減らす</li><li>・ 地元産農産物を購入する</li><li>・ 不要なものは買わない</li></ul>

# 将来の姿に関する主な意見

## 環境ビジョン：資源が循環するまち

Step1（環境の変化）	Step2（2050年の守山）	Step3（何ができるか）
<ul style="list-style-type: none"><li>・ごみのリサイクルが行われるようになった</li><li>・ごみの分別が進んだ</li><li>・ポイ捨てが多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>生ごみをリサイクルできる仕組みが</u>できている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生ごみ処理機を買う</li><li>・お米と生ごみを交換できる仕組みをつくる</li><li>・生ごみをバイオマス発電の燃料にする</li></ul>

## 環境ビジョン：快適に暮らせるまち

Step1（環境の変化）	Step2（2050年の守山）	Step3（何ができるか）
<ul style="list-style-type: none"><li>・雑木林が減った</li><li>・外で遊ぶ子供が減った</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>観光地にはならず、緑豊かで暮らしやすい</u></li><li>・市街地や駅前にも緑が充実している</li><li>・<u>環境保全と住みやすさが両立している</u> [再掲]</li><li>・<u>自然を活かした快適な暮らしが</u>できている [再掲]</li><li>・<u>歴史的な街並みや風景が</u>残されている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・空き家を地元の野菜売り場として活用する</li><li>・自宅で植物を育てる</li></ul>

# 将来の姿に関する主な意見

## 環境ビジョン：未来へつなぐまち

Step1（環境の変化）	Step2（2050年の守山）	Step3（何ができるか）
<ul style="list-style-type: none"><li>・ホタルを守る活動が行われるようになった</li><li>・市のイベントが少なくなった</li><li>・地域の環境活動に参加しやすくなった</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境を守るための対策がたくさん実施されている</li><li>・市民の環境への意識が向上している</li><li>・意見を出せる場が多くある</li><li>・地域の人と助け合う関係性ができている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝統を継承する人材の育成</li><li>・環境保全活動に積極的に参加する</li><li>・マルシェなどで環境のことを知ってもらう</li><li>・環境によいモノや行動、活動をSNSなどで発信する</li><li>・他の地区の人とも情報共有ができる仕組みをつくる</li></ul>

## まとめ

- ・ 市民が思い描く将来の守山の姿と次期計画案の環境ビジョンに大きなずれがないことが確認できた
- ・ Step3（将来への希望・目標を実現するため、何ができるか）で出た意見は、第3回審議会以降で具体的取組を検討する際に活用する。

**【参考】**  
**参加者とファシリテーターへの配布資料**

# 守山の環境に関するアンケート調査結果

2023年2月4日

# 概要

## < 目的 >

次期の守山市環境基本計画を策定するにあたり、今後の環境施策に活かしていくことを目的にアンケートを実施

## < 対象者 >

市民懇談会の案内を送付した2,000名の市民

## < 実施時期 >

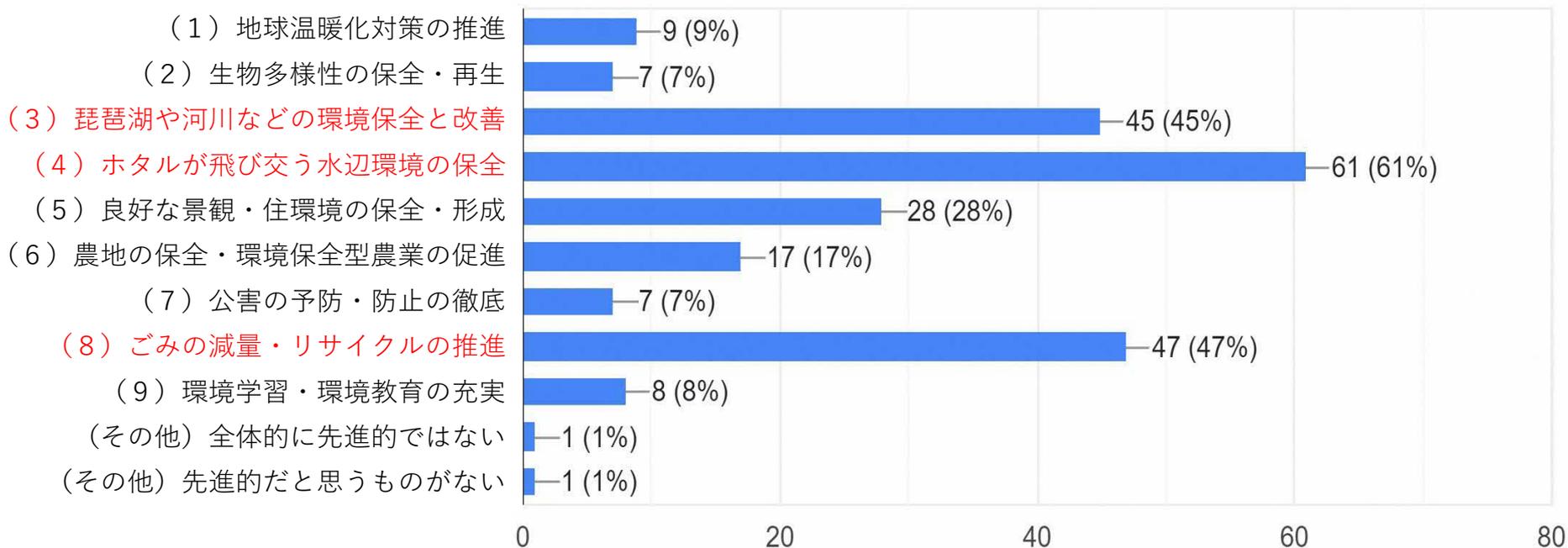
令和5年1月13日から1月25日

## < 回答数 >

100名

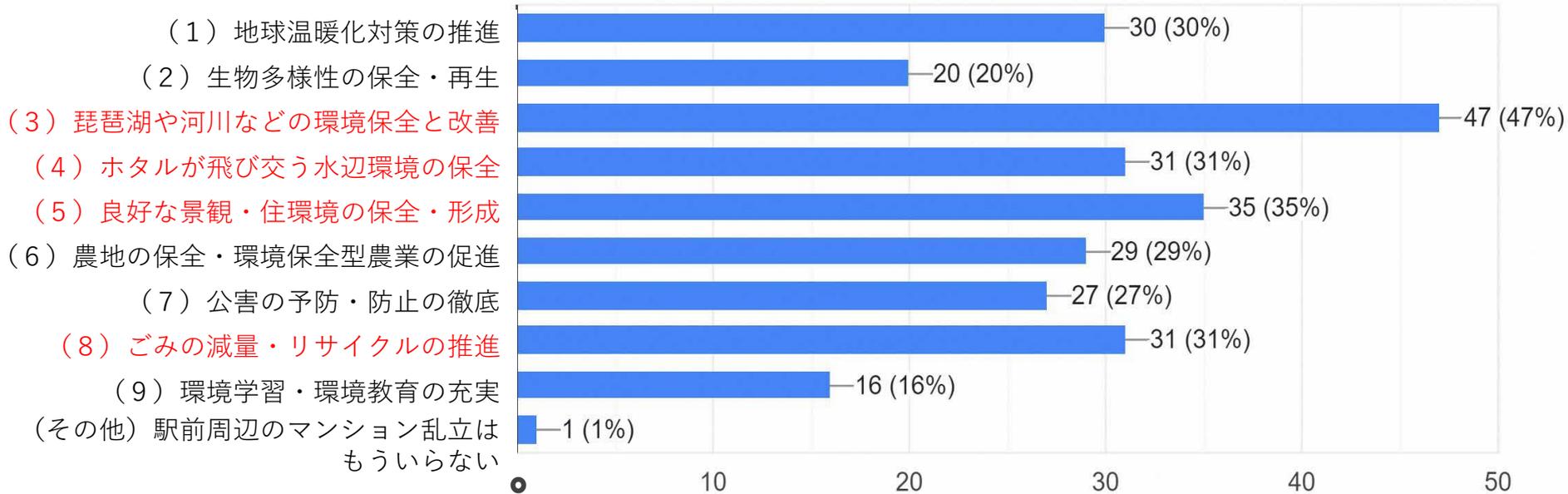
# アンケート結果

## 1. 守山市の環境の取組について、先進的であると考える分野を教えてください(3つまで)。



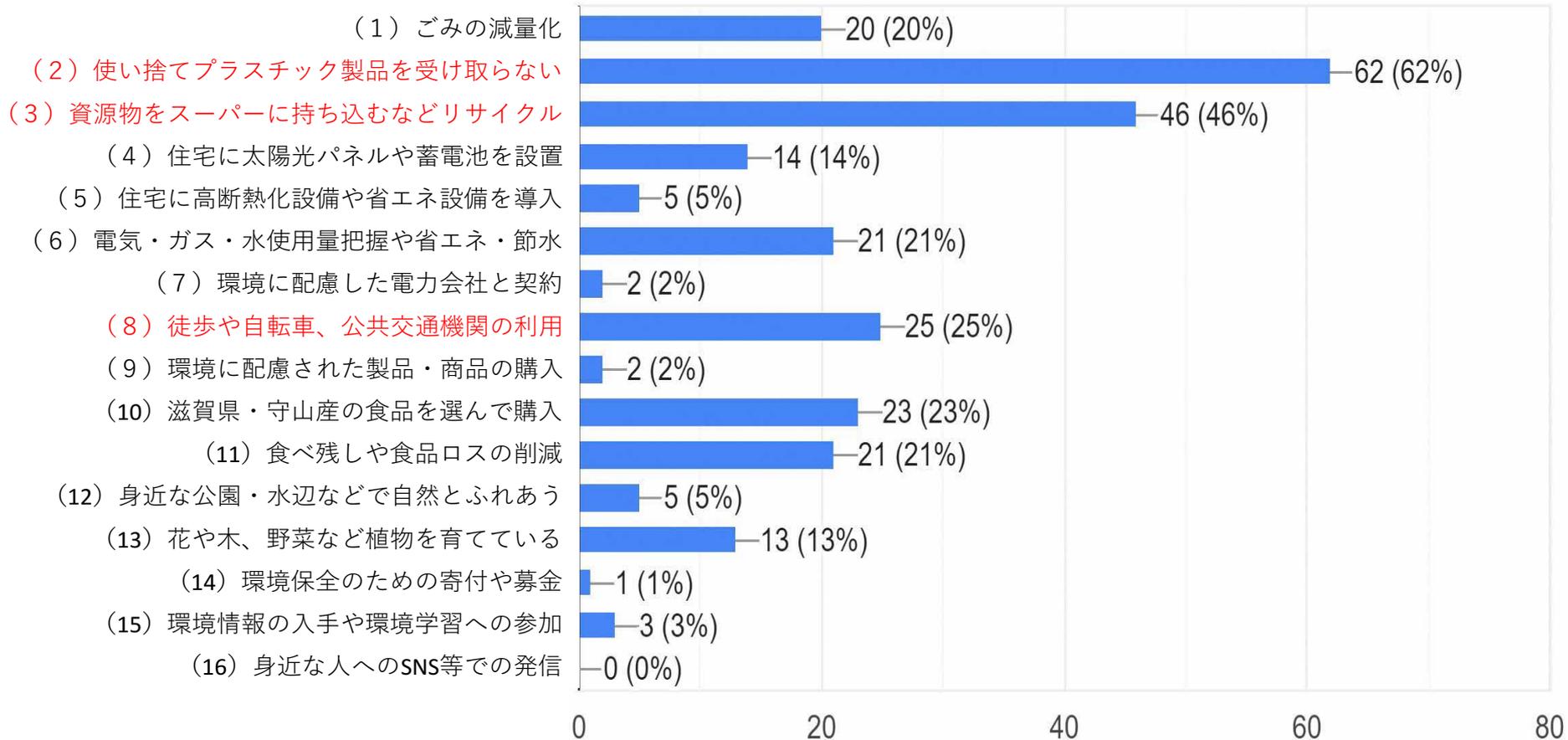
# アンケート結果

## 2. 守山市の環境の取組について、今後重点的に進めていくべきとあなたが考える取組について教えてください(3つまで)。



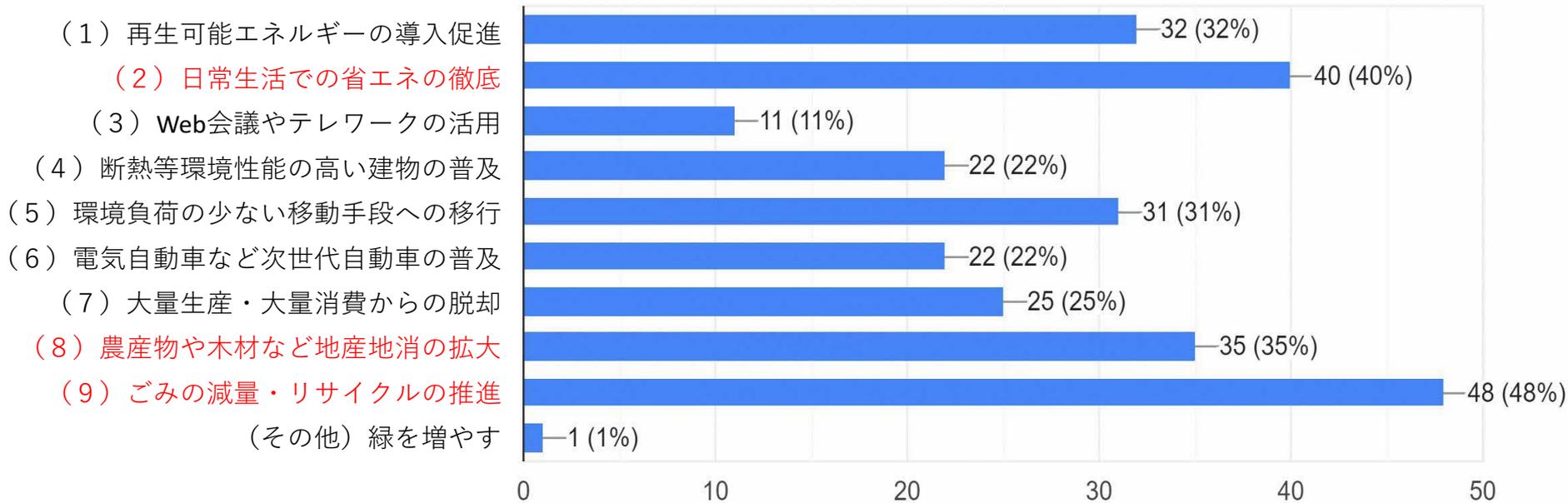
# アンケート結果

## 3. あなたが日常的に取り組んでいる環境保全を意識した行動を教えてください（3つまで）。



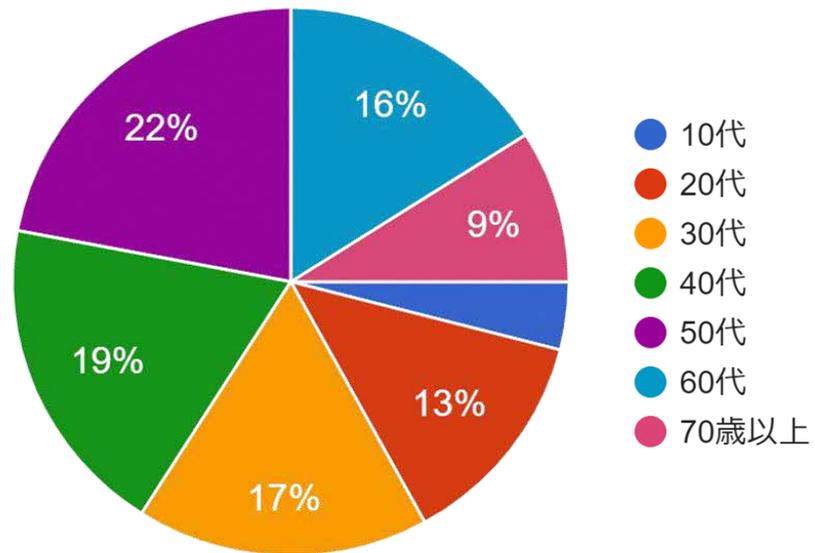
# アンケート結果

4. 守山市では、2050年脱炭素社会の実現に向けた取組を重点的に進めていくべきと考えていますが、その実現のため、まず2030年に向けた取組で重要と考えるものを教えてください（3つまで）。

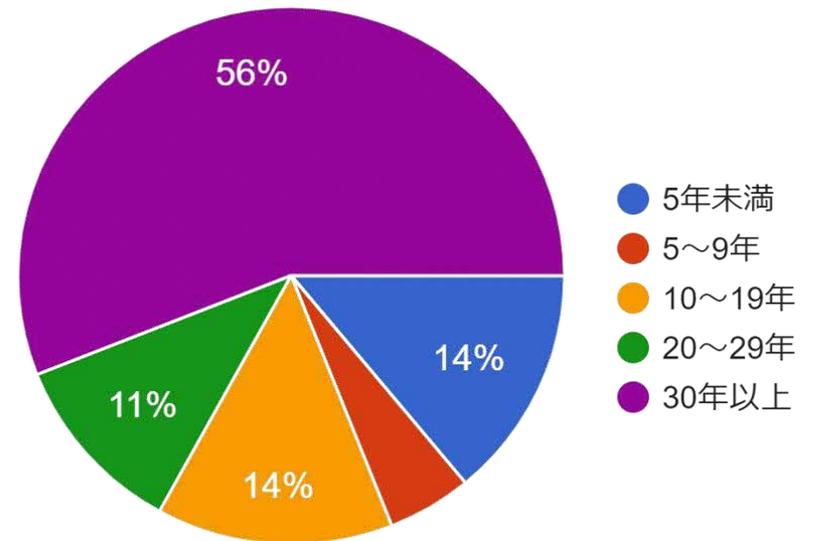


# 回答者の属性

## 年齢

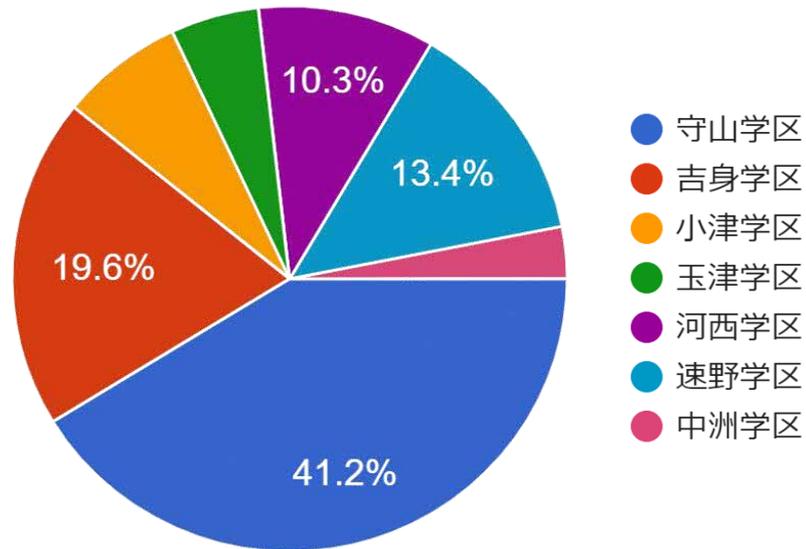


## 守山市に住んでいる年数

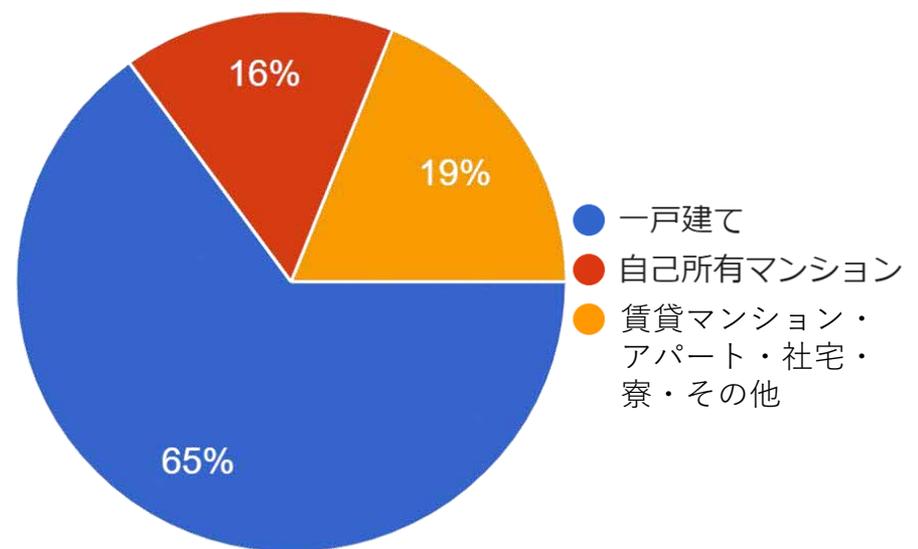


# 回答者の属性

## 居住地区



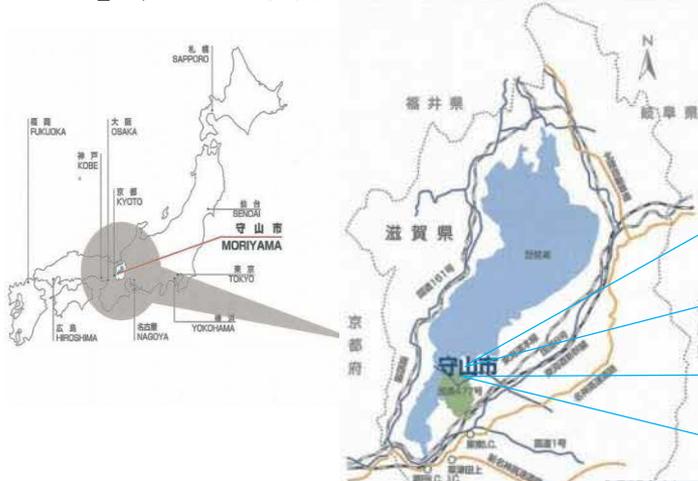
## 居住形態



# 守山市の概要

50年先の将来のビジョン：『豊かな田園都市』へ

2020年7月に50周年を迎え、次の50年に向け「のどかな田園都市」を進化させ、市民一人ひとりの心身の「豊かさ」、自然環境や教育文化等の「豊かさ」をさらに追及する。



2020年7月1日 市制施行 50周年

※「守山」は比叡“山”の東の鬼門を“守”るまちが由来

人口 85,619人 (2022年12月末時点) ※人口増が継続  
世帯数 34,469世帯 / 65歳以上の割合 22.1%

人口情報

面積 55km<sup>2</sup> (うち陸地面積 45km<sup>2</sup>)  
※市内の高低差 約20mのフラットな地形

地形

JRで京都まで27分、大阪まで57分の好アクセス  
※大都市のベッドタウンとして成長



良質な子育て・教育環境

※良質な中高一貫校(県立守山  
立命館守山中高)



充実した医療機関

※県立総合病院  
県立小児医療保健センター  
済生会守山市民病院



落ち着いた地域・自然環境

※駅前ホテルの舞う河川環境  
琵琶湖・赤野井湾の市民の手  
による再生(固有魚や真珠の復活)



# 守山市環境学習都市宣言（2017年10月制定）の具現化に向けて

環境センターの更新を契機に、2017年10月に「環境学習都市宣言」を制定。

この宣言は、「市民一人ひとりが守山の環境について、さらに理解を深めるとともに、学び、考え、行動すること」とする自治連合会からの決意表明を受け、市民の手によって定められたものです。

- 1 わたくしたちは、ホタルが飛び交う水辺や森づくりを通して、自然を大切にすることを育みます。
- 1 わたくしたちは、ごみの分別や減量化を通して、資源の活用と環境意識の向上を図ります。
- 1 わたくしたちは、豊かな琵琶湖の恵みを通して、琵琶湖の大切さを学び、琵琶湖を守るために行動します。
- 1 わたくしたちは、地球環境と自然を守る暮らしを通して、エネルギーを大切に、持続可能な社会を築きます。
- 1 わたくしたちは、環境学習を通して、人と人がつながり、環境や自然に関心を持ち、その大切さを共有します。

## 1. もりやまエコパーク 環境センター

2021年10月稼働



70トン級の小規模処理施設では全国最高水準  
高温高圧の蒸気条件（4 MPa・400℃）でエネルギー回収  
率18.5%を達成[発電効率17.0%+熱利用率1.5%]

- ・ごみを燃やした熱エネルギーを利用するサーマルリサイクルを実施（エネルギーの地産地消）
- ・タービン排熱を利用し、交流拠点施設の温水プールへ熱供給

## 2. 環境学習の推進

- ・環境コミュニケーターの配置（2021年4月）
- ・拠点施設：エコパークでの環境学習
- ・自然環境：琵琶湖・野洲川等でのフィールドワーク



## 3. 赤野井湾再生プロジェクト

市民・関係団体・国・県・市・企業による取組み



湖底ごみ除去活動



淡水真珠の復活



ホンモロコの産着卵

## 4. ホタルの保全活動

- ・ほたる条例制定および保全活動
- ・ほたるパーク&ウォークの実施



# 「豊かな田園都市」を目指したまちづくり

## 再生可能エネルギー等の導入促進

## 平坦でコンパクトな都市を活用した低炭素交通システムの推進

## 市民等による環境保全への取組み

### 1. 再生可能エネルギー等の活用

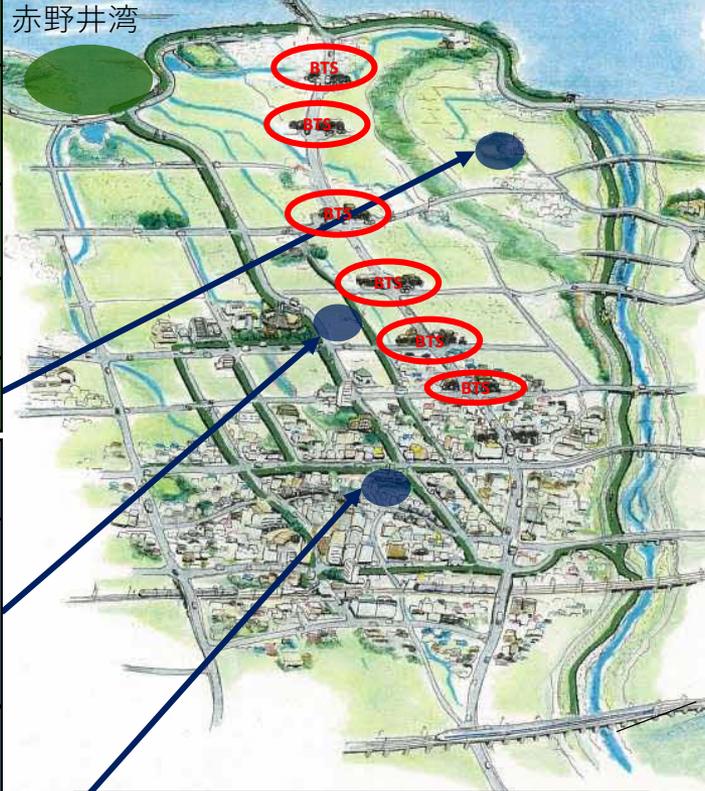
- ① 市民共同発電所（市内4箇所）  
市民出資による共同発電所（太陽光パネル）の設置
- ② 事業所との連携による「太陽光+蓄電池」の積極的推進
- ③ 法改正を踏まえたZEHの普及促進
- ④ 環境センター（再掲）  
サーマルリサイクルの推進

### 2. 公共施設におけるゼロエネルギー化

- ① 守山中学校:スーパーエコスクール  
ゼロエネルギー学校を目指す



- ② 守山市役所庁舎 2023年9月暫定供用  
・「ZEB ready」の達成  
自然エネルギー積極的活用と省CO2技術の導入  
・県内産木材である「びわ湖材」の使用



### 3. 公共交通と自転車の利用促進

- ① BTS（バス・自転車乗換えステーション）  
琵琶湖大橋取付道路沿いの6箇所
- ② スーパー学割定期券の発行  
（R2：2,895月分 R3：3,523月分）

バス一日平均乗降客数  
H26：3,343人/日 → R3：5,291人/日

- ③ もーりーカー（デマンド乗合タクシー）  
（利用者H26：3,494人 → R3：10,811人）

- ④ 自転車購入補助による自転車普及促進  
（R2：216件 R3：212件）

- ⑤ 滋賀県と連携した自転車走行空間の整備



### 4. 木材の積極活用

- ① 守山市立図書館  
来館者40万人/年 貸出冊数105万冊/年



- ② 北部図書館（R5オープン予定）



*Which do you choose ?*

二つの持続可能社会の姿

「どちらを選ぶ？」

## 社会全体のイメージ



- ・自然の力、人々の協力による問題解決
- ・コミュニティを大事に
- ・伝統的、文化的な価値を重んじる
- ・地域の自立、自律
- ・「もったいない」の重視

### 自然共生型社会

## 社会全体のイメージ



- ・高度な技術による問題解決
- ・個人を大事に
- ・便利さ、快適さを重んじる
- ・広域化、グローバル化
- ・競争による成長の重視

### 高度技術型社会

いまや世界中が「持続可能社会」なるものを模索している。持続可能社会の大前提は二酸化炭素排出量の大幅削減であるが、滋賀ではその目標を50%としている。そのような目標に到達する社会の姿として、本稿では、二つの社会像を対比的に定義している。

一つは、

国が先導するような大規模な先端技術に支えられる  
「高度技術型社会」であり、

もう一つは、

自然の力を活用した小規模の適正技術を振興する  
「自然共生型社会」である。

さて、このような対極的な社会の姿について、皆さんはどちらを好まれるだろうか。

### 家庭での暮らしかた

- ・多世代同居やルームシェア、コレクティブハウスなど、多様な形で暮らす家が増える
- ・複数の家族が集まり、共有して使うスペースがある
- ・家族が皆で分担、協力して家事を行う



### 住居のありかた

- ・自然の樹木、雨、風、日差しを活用したエコロジーな家
- ・地元工務店による、地域の木材、地域の伝統を活かした住宅
- ・借家、借地、賃貸マンションなどを借りて住む



- ・核家族や単身者の世帯が増え、1〜3人で暮らす家庭が主流に
- ・家族ごとに自分たちだけの生活の場を持つっており、プライバシーが守られている
- ・食器洗浄乾燥機、掃除ロボットなどの普及により省力化が進む



- ・断熱性、気密性にすぐれた、省エネ空調の完備した家
- ・大手住宅会社による、最新の素材や輸入材を用いた便利で快適な住宅
- ・土地や戸建て住宅、マンションを財産として購入する



(図：国立環境研究所)

### 日々の消費

- ・地元でとれた新鮮な産物を扱う直売店(朝市、夕市)ができる
- ・売り場にはリユース品も多く並んでいる
- ・近くに商店街があり、そこでの買い物が主流となる
- ・地元の商店が注文を聞き配達して回る「御用聞き」の仕組みが復活する
- ・欲しい商品、欲しい量を見極めて買うスタイルが一般的になる
- ・使用頻度の少ないものは、一時期しか使わないものはレンタルやリースで調達する



### 食生活

- ・小売店では主に地場産の生鮮品が充実し、自宅で料理、食事をする
- ・規則正しい時間帯に、みんなで食卓を囲んで一緒に食べる
- ・地元農家や家庭菜園でとれたものが中心
- ・季節ごとに、旬の食材を使ったものを食べる
- ・食材の生産から販売まで、地元の「顔の見える関係」が安全を保証している



- ・遠方の産物も産地直送で新鮮なうちに買うことができる
- ・売り場には常に最新の商品が並んでいる
- ・郊外に大型量販店があり、そこでの買い物が主流となる
- ・インターネットなどで家にいながら端末で注文、自宅に配達してもらうことができる
- ・多種多様な商品の中から欲しいものを自由に購入することができる
- ・生活に必要なあらゆるものが、各家庭に買いそろえられている



- ・小売店では弁当、惣菜など加工食品が充実し、外食も賑わっている
- ・生活スタイルが多様化しており、家族がそれぞれ都合の良い時間に食事をする
- ・世界各地から輸入されたものが中心
- ・一年中、季節を問わず好きなものを食べることができる
- ・店頭の食品は電子タグで流通の履歴が情報管理されることで安全が保証されている



自然共生型社会

仕事

- ・ゆとりの多い勤務時間でほどほどの収入
- ・ワークシェアリングで多様な仕事、多様な就業スタイルで働く人が増える
- ・ワーカーズコレクティブ(協働事業)や農村回帰などにより一次産業が再活性化
- ・地域密着型の企業が活躍する
- ・職場が家から近いところにある、ちよつとした用事でも気軽に行き来できる



余暇

- ・家庭菜園やボランティアなど趣味と実益、社会奉仕を兼ねた余暇を過ごす
- ・釣り、キャンプ、里山散策など自然の中で過ごす人が増える
- ・地域におもむき、人々と触れ合うことで地域の文化に直に触れる



琵琶湖とのかかわり

- ・湖上は交通、物流の船が行き交い、湖岸には人々の生活の場や生物のすみかが復元される
- ・近江八景に代表される、滋賀古来からの文化を残す伝統的風景が再生される
- ・フナやモロコなど、琵琶湖独自の水産資源を得ることができる



高度技術型社会

- ・仕事は忙しいが、高い所得
- ・高度な専門性を要する技術職、技能職に従事する人が増える
- ・一次から二次、三次産業へのシフトがさらに進む
- ・企業再編により、競争力を持つ大企業に集約される
- ・情報インフラが整備され、職場は遠くても週に何日かは自宅で仕事することが可能となる



- ・旅行、ショッピングなど娯楽に富んだ余暇を過ごす
- ・ゲームセンター、遊園地など施設型のレジャー施設が賑わう
- ・バーチャル体験により国内外の観光名所に行った気分を手軽に味わえる



- ・湖上には観光船が走り、湖岸は公園や道路が整備され、滋賀のレジャーの中心地となる
- ・琵琶湖を広く見渡せるマンションやホテルなどの大型施設が湖畔に建ち並ぶ
- ・観光客の訪問、商業施設の活性化により大経済効果が生まれる



地域基盤

土地利用

- ・市街地には高機能で集中的な、郊外や里山にはシンプルで小規模な自立型のインフラが整備される
- ・都市はコンパクトにまとまり、住宅、職場、学校、商店等が近い範囲内に共存している
- ・自転車や徒歩で十分な範囲内に生活圏が形成される
- ・市街に緑地が増え、街路が子供の遊び場や交流の場となる



水

- ・自然の植物、微生物の力で小規模で排水処理する仕組みが各地に普及し、し尿などは、回収して近隣の農地に肥料として利用される
- ・地域内で用途に合わせて水を繰り返し使う仕組みが復活する(川端など)
- ・飲み水として地域の水が用いられる



- ・近畿全域にまたがる大都市圏が形成され、県内にまんべんなくインフラが行き渡る
- ・都市近郊を中心にマンションや宅地が整備され、郊外型の大型商業施設が増える
- ・車の走りやすい道路網が整備され、日常生活の行動範囲がさらに広がる
- ・郊外を中心に、公園やレジャー施設が建てられる



- ・ほぼ全ての家庭、事業所に下水道が普及し、超高度技術により集中的に処理される
- ・下水処理した水を再利用する「中水道」が普及する
- ・飲み水はミネラルウォーターが一般的になる





### 交通・物流

- ・近場の移動は自転車のようなエネルギーを消費しない移動手段が一般的
- ・市街地には自転車道が整備され、船やバス、電車にも積み込んで遠方の移動にも自転車が利用できる
- ・カーシェアリング、乗合タクシー、コミュニティバスなど車は多く人数で利用する形が主流に
- ・地産地消、都市のコンパクト化により貨物の輸送距離が減少し、地域間の輸送は鉄道や船が主な手段となる
- ・自動車の交通量の大幅な減少に伴い、交通事故も減少する



### 街並み・景観

- ・伝統的な様式を基本とした各地の風土、歴史になじんだ町並みを形成
- ・建物の容積率や高さが、法律や条例で制限されている
- ・広告、看板などは景観を害さないデザインに統一
- ・風や日射など、自然に配慮しそれを活用する街並みが整備されている



### エネルギー

- ・薪ストーブや電気を使わない冷蔵庫など、地域の資源、自然の仕組みを生かした製品が普及する
- ・省エネ型のライフスタイルへの転換によりエネルギー消費が大幅に減少
- ・水力、風力、バイオマスなど自然エネルギー、再生可能エネルギーが家庭や地域に小規模な形で普及する
- ・これらの導入により、現場産業が活発となり、補助金や低利融資も活用される



### ゴミ処理

- ・必要なものを見きわめて買う生活スタイルが定着し、ゴミの発生量が大幅に減少
- ・地域内で小規模なりサイクルの環が形成される



- ・近場の移動としてハイブリッド車、電気自動車など大幅に低燃費化した自動車が普及
- ・各地にバイパスや有料道路が効率的に整備され、遠方でも車でスムーズに移動できる
- ・用途に応じたタイプの車が一人一台近く保有され、生活のあらゆる場面で住民の足として活躍する
- ・流通の全国化、グローバル化により貨物輸送量は一層拡大、新幹線なども利用した大規模高速貨物鉄道網が整備される
- ・道路網の整備、自動運転システムなどにより交通の流れが円滑になり、事故も減少する



- ・琵琶湖など周辺の風景を見渡せるマンションが建ち並び、先端的な街並みを形成
- ・駅などでは、高層ビル群が集積する
- ・様々な趣向を凝らしたデザインの店舗が建ち並び
- ・ヒートアイランドを緩和するため、ビルの屋上や周辺に緑地や水辺が整備されている



- ・最新技術により高効率の家電製品、空調機器、給湯器、コジエネレーションなどが開発される
- ・省エネ製品が広く普及することによりエネルギー消費が大幅に減少
- ・太陽光、水力、大型風力、バイオマスなど自然エネルギー、再生可能エネルギーの大規模な供給が主力となる
- ・これらの導入により大手メーカーを中心として大きな経済効果が生まれ、補助金や低利融資も活用される



- ・広域でゴミを回収し、溶融など高度な処理により最終処分量が大幅に減少
- ・不用となった製品を原材料に還元する「逆工場」が建設され、大規模な物質循環が実現する

自然共生型社会

産業

高度技術型社会

技術と製造業

- ・県産材利用、バイオ燃料、小型風車、帆船づくりなど地域での力で取り組める「適正技術」が地場産業として創成される
- ・適量生産 注文生産で高品質、長寿命
- ・地域内でのリユース、リサイクル事業が発展、譲りたい人と欲しい人をつなぐネットワークが構築される
- ・労働集約型の製造業が増え、地域雇用が生み出される
- ・熟練した匠が活躍している

- ・IT、バイオ、家電など様々な分野で先端技術が発展し、製造拠点が県内に立地する
- ・量産可能な生産ラインで安定供給
- ・最新の再資源化技術を集積したりサイクル工業団地(エコタウン)が操業
- ・大きな設備、資本を有する製造業が進出し、地域雇用が生み出される
- ・高性能な製造ロボットが活躍している

サービス業

- ・娯楽に関するサービス需要の多くが地域内で満たされる(散策、釣り、家庭菜園、炭焼き、陶芸など)
- ・福祉、介護など高齢者サービスが地域の人々の非市場的な協働で行われる
- ・レンタル、リース、共同利用など製品のサービス化が進む
- ・手作りが尊重されるようになり、を手助けするレンタル工房などのビジネスが登場する

- ・娯楽に関するサービス需要の多くが外部で満たされる(大型レジャー施設、温泉、海外旅行、エコツーリズムなど)
- ・福祉、介護など高齢者サービスがビジネス市場として大きく成長する
- ・様々な製品のリサイクル率が向上し、再製品が新品同様に市場に流通している
- ・様々な人の事細かな要望に対応した、バリエーションのある商品が売られている

農業

- ・農村回帰の流れにより、農村と近くの都市との間で人やモノの流れが活性化している
- ・有機、循環農業で人の協働や家畜の力が中心になる
- ・地元で作られた季節ごとの旬の作物が消費されている
- ・福祉、憩い、教育、更生、レジャーなど多様な目的に活用され、農地は重要な社会活動の場として位置づけられる



- ・企業の農業参入などにより、市場出荷量の多い大規模農家が主流になる
- ・バイオ技術を駆使した植物工場型の大規模生産で省力化、品質管理が徹底される
- ・季節を問わずあらゆる作物が栽培、収穫可能となる
- ・大規模効率的な生産、出荷体制が確立されることで農業生産額が大幅に上昇、農地は重要な産業拠点として位置づけられる

水産業

- ・自然湖岸を再生することで生態系が回復し、在来種の漁獲量が増加する

- ・バイオテクノロジーを活用した最先端の養殖により漁獲量が増加する

林業

- ・生き物のすみか、憩いの場、教育の場としての森林の価値が重視される
- ・地域の自然生態系に即した樹林が育てられ、地元の住宅づくりなどに活用される
- ・地域や外部のボランティアも参加した里山の維持管理



- ・二酸化炭素吸収源として森林の価値が重視される
- ・経済性の高い樹種を植林し、材木を広く出荷することで高い林業収益を得る
- ・高性能林業機械を活用した大規模集中型の維持管理



経済

- ・GDPで見ると経済規模は縮小しているが、地域内での取引が増大し、地域経済は活発化する

経済・法制度

- ・経済は安定成長を維持し、二十年で現在の約二倍の規模に成長する

税・制度

- ・グリーン税、炭素税などが課税され、環境に配慮した地域づくりのための財源となる
- ・景観税など、琵琶湖の環境利用に対する課税が導入される
- ・個人レベルでの排出権取引が主流となり、排出権チケットが配布される
- ・特区などによるエコ地域社会モデルの実現
- ・県産材住宅促進のため法制度や金利優遇優遇措置が整えられる

- ・グリーン税が一部実施され、省エネ型の住宅、機器、車などを促進するための財源となる
- ・琵琶湖周辺の経済活性化のため税の減免が導入される
- ・排出権取引市場が拡大し、県内事業者による国内外間の取引が行われる
- ・特区などによるエコ産業拠点の実現
- ・高性能省エネ住宅促進のため法制度や金利優遇措置が整えられる

自然共生型社会

高度技術型社会

行政

- ・行政と住民の距離が近い、小回りがきく行政サービス
- ・NPOの指定管理、"スローな公共事業"など行政と県民、事業者の協働が進んでいる
- ・適正な規模での自律

- ・自治体再編(市町村合併や道州制など)による効率的な地方行政
- ・電子業務などを中心として企業へのアウトソーシングが進んでいる
- ・大きな地域基盤の確立

人間関係

- ・コミュニティなど、人同士のつながりの尊重
- ・地域社会での世代性別をこえた、近所づきあいや町内での集まりなどが活発に行われる

- ・個人のプライバシーの尊重
- ・IT社会の中で世代性別をこえて、遠く離れた者同士のコミュニケーションが活発に行われる

文化

- ・各地の固有文化が、住民の生活の一部として世代間に受け継がれていく
- ・祭りなどの年中行事に参加することで、自分の住む地域の文化を、身をもって体験する

- ・各地の固有文化が地域の観光資源としての価値を持ち、保護・再生される
- ・バーチャルリアリティ(仮想現実)の普及で、家にながら世界各地の文化に触れることができる

国際交流

- ・地域レベルの技術支援やボランティアなど、非営利活動を中心とした交流が活発になり、学習や文化交流のために滋賀を訪れる人が増える

- ・グローバル企業の進出など、ビジネスを中心とした交流が活発になり、仕事のために滋賀を訪れる人が増える

安全・安心

- ・住民が自主的に防犯、防災に取り組み、人同士の付き合いが地域の安全性を高める
- ・物の豊かさにとられない価値観が定着し、犯罪の動機そのものが減少する

- ・防犯センサー、警報システム、災害予測システムが各町内、各家庭まで広く普及する
- ・信頼性の高い防犯システムが地域の犯罪を未然に防ぐ

子育て

- ・地域の人々による協力体制が築かれている
- ・親、兄弟、祖父母など家族全員で子育て
- ・近くの保育施設やお年寄りなどコミュニティの力を借りることで子育ての負担が減る

- ・行政が子育てを手厚くサポート
- ・公共、民間の育児支援サービスが親の負担を軽減
- ・職場(の近く)に二四時間保育施設が増え、働きながらの子育てが楽になる

教育

- ・衣食住に必要な技術・知識の体得を目標とした学習
- ・コミュニティがキャンパスとなり、現場での実学が活発化する
- ・礼儀作法やマナー、食の大切さなどが家庭での生活を通じて身につく

- ・グローバルな競争社会に適応しうる高度な知識の学習
- ・高等教育機関での専門家の指導によるハイレベルな学習が充実する
- ・礼儀作法やマナー、食の大切さなどが学校教育の一環として教えられる

健康・医療

- ・日常生活や仕事の中での運動、自然な食生活などを通じて健康が維持される
- ・予防医学の進展、健康的なライフスタイルで発病を予防する
- ・家族やコミュニティ運営の地域ネットワークによる介護が一般的に
- ・末期医療、緩和ケアの充実、尊厳死

- ・健康食品、サプリメント、フィットネスジムなどを活用することで健康を維持する
- ・診療技術、再生医療、製薬技術の進展により「不治の病」の多くが克服される
- ・健康情報管理端末、介護用ロボット、救急医療情報システムによる介護が一般的に
- ・医療技術の進歩による長寿命化

価値観

- ・地球は有限である
- ・人と人、人と自然の共生が重視される
- ・この世はすべて次代送り(生命の連鎖、循環)
- ・「三方よし」と「もったいない」

価値観

- ・地球は無限のフロンティアをもつ
- ・競争し、成長しあうことが重視される
- ・自己の欲求を追求すれば社会の価値も高められる
- ・絶えることなく成長発展を続ける



## 二つの持続可能社会の姿 「どちらを選ぶ？」

2008年1月 発行

問い合わせ：  
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析室  
〒520-0022 大津市柳が崎5-34

TEL：077-526-4802 <http://www.lberi.jp/>

イラスト：今川朱美